【大正十五年二月二十日第三種郵便物認可】 昭和十年九月十八日 磐城新聞 〔水曜日〕 第四千四百三十號 【一】

夕刊 磐城新聞
九月十七日發行
（日曜祭日翌日休刊）

新秋怪談 **藥を欲しがる女** (2)

島田忠夫

（二）

東北のT町、――、あゝ、ご存じですか。それは奇遇です。えゝ？　貴方が少年時代を過されたと仰言るのですか？　ます／＼奇怪ですねエ。さうですかねエ。

實は、僕はあのT町のK病院に、二年ちよつと勤めましたよ。なに、誰れの世話でもないのです、學校を卒業する時、學生課の方で東北のT町のK病院から、藥劑師を一人欲しいと云つて來てゐる。行かないか？と云ふのです

僕は、早く父を亡くしてね。まあ母の手で育つたのです。兄もあります。ところが、兄と僕とは母が違ふのです。つまり、異母兄ですね。その兄から學費を貰つてゐたので、早く堅苦しい兄の傍から離れたかつたのです。尤も、母には氣の毒でしたがね。ナニそのうち、お母さんも呼びますよ、とか何とか云つてさつさとT町へ出かけて行きましたね。月給は八十圓の約束でした

行つて見ると、案に相違して、K病院は頗る見すぼらしいものでした。內科、外科、婦人科、皮膚科と、田舍らしく全部を看板に書き出して、さて醫師が二人、つまり院長のK氏と、醫學士のH氏――。あゝ、貴方はT町をよくご存知でしたつけね。えゝ、そりや昔よりは、K病院も少しは良くなつてゐませうが、さて行つた月末に渡されたサラリーが、なんと五十圓足らずです。

看護婦も四五名居るには居ました。ご承知の東北の娘さんらしい、りんごのやうな頰をした、がつちりした體格の看護婦ばかり、いや持てたりなど致しませんご冗談でせう

下宿は、町はづれの越後屋。ご存じですか？　あの鮎川の流れに沿ふた古ぼけた宿屋を……。一年ばかり居りで、壽吉館へ移りました。壽吉館の主人は、素人角力の力士で、あの邊では有名ですね。その頃はサラリーも漸く七十圓位になり、僕もHさんに連れられて、たまには料理屋へ行くこともあつたりして、少しは酒を飲めるやうになつてゐました

さうです、一年目位からの事です、忘れもしませんこの事があつてからこそ、僕はT町を逃げるやうに去つたのですから……

松永君は、こゝでソーダ水をあつらへた。その爲め暫く松永君の話は、と切れたのである。六月末の鬱陶しい宵である。この茶房「きやんどる」に、今宵ばかりは、二人の外に客らしい客もないレコードは、先程からウエトレスに頼んで止めて貰つてある。どうやら外は雨の音がして、梅雨の空が、いつまでも愚圖つくものらしい……。松永君は、ソーダ水を飲み干してまた話を續けた……

峠の雪

宇津木三四郎

二

――此處へ來てから半年になる――

その間、死を豫期しながら死を待つてゐる朝倉の心は苦しかつた、乾き切つてゐた淚が新しい悲しみで再びぬれてきた

『俺は死ぬ事を恐れてはゐない、だが俺は死にたくはない』

生きられない者の焦燥が矛盾が朝倉には明らかに自分の心の中に意識出來た

それ故に、あきらめられない諦に、鉛筆をもつてカンバスをぬる、それが今日の一日、昨日の一日であつたのではないか

次の日の朝

雪に晴れて、晴れた波の上に、かもめがゆるやかな羽ばたきをしてゐた

煙、はいて幾艘かの蒸氣が磯の燈臺を廻つて出行くボン／＼と言ふ音が、ねそべつて書物を讀んでゐる朝倉の耳にも新しく晴れやかに響いてきた

一枚一枚頁を繰つてゐた彼はその手を止めて高い靑い空を仰いだ

トザサレタ憂愁がいつか亦雪の樣に解けて行くのが朝倉にはうれしかつた

しかしこの喜びも病める者にとつては悲しみを倍加させる半面でしかない事を長い病院生活で知りぬいてゐた彼は、やつぱり心の何處かに淡い淋しさを感じない譯にはいかなかつた

喜びも悲しみも結局は同じ心の歎息にしか過ぎないのだ

暖い春の樣な日がそれから三日つゞいて遠い山脈の頂にのみわずかに雪の斑點は殘された

朝倉は長い間身につけなかつた學生服を着て一人外へ出たすると看護婦が追つてきて

『早く歸つていらつしやいまだ外は冷たいのですから！』

潮聲硯靜抄帳

課題吟　例會席上互選

枇杷

ビール飲む客箸とぢて枇杷をむく　晩霞

大枇杷の枝たはゝなるみやげかな

枇杷の葉の露一齊に光り居り　嶽男

金色の枇杷に落たくこの日頃　石城

枇杷の實は鳥うるさき野寺哉　文狂

殘炎

珠雲　小野務平

萬壑千山樹影蒼
乾坤何日入新凉
殘炎灼々傴三伏
乳犬簷前喘喝長

垣根の朝顔

小菅正路

垣根の朝顔　咲きました
蝶々がおそばで　ねゝしてる

垣根の朝顔　紅い花
お日さん　お早うありがとさん

垣根の朝顔　白い花
お露がきら／＼　目映いな

垣根の朝顔　桃や瑠璃
雲雀がお空へ　上ります

垣根の朝顔　向ふから
牛乳屋さんが　ちら／＼だ

垣根の朝顔　ほう長い
あちいさまーも　起て來た

けふの日

9月18日

△太安萬侶『古事記』編纂の勅を奉ず（和銅四）△帝國議事堂燒失（大正一四）△德富蘆花逝去（昭和二）△滿洲事變三週年△國防婦人會發會式（同九）

〇

福島からのみやげに貰つた二十世紀梨のとろけるやうな味のよさはとうていこゝらの梨の比ではない

小說

誰が殺したか

(125)　今野賢三作　龍造寺勝齋畫

第二の殺人（九十五）

『咲山さん！あなたがどうしても敎へて下さらなければ、わたし自分で、どうにか死ぬまでのことよ！けれど咲山さんがもし、わたしちつとでも可哀想だと思召す心持があつたら敎へて下さることよ、それは、どのくらゐ私を感謝させるか知れないわ！あなたの手で、あなたによつて！わたし死ぬことができるとしたら、それは、どんなにうれしいことでせう！わたし、ちつとも、あなたに愛していたゞかうと思はないのよ、これだけ、これだけきいていたゞければ、ほかに、なんの望みもないわ、どう？きいていたゞけなくつて？咲山さん！この通りわたしお願ひしてよ』

富枝子は兩手を突いて泣きながら、幾度も幾度も、あたまを下げた

その日は、それで考へてみるからといつて、とにかく、その場を切ぬけたのであつたが、どう考へても、そんなことを敎へなどゝいふことは、できるわけのものではなかつた

それから、こんどは自分から訪ねて極力自殺を思ひとゞまるやうに說きたてたすると、富枝子は言ふのであつた

『さういふことはむしろ殺すことで死ぬことを敎へて呉れてこそ、ほんとうに生かしてくれることだ』

と……

その日も咲山は敎へるなどゝいふことは斷じて出來ないとことわつて歸つたのであつた

ところが歸つたあとで咲山の眼についてはなれないのは斷られた爲に極度になげきかなしむ、いぢらしい姿であつた

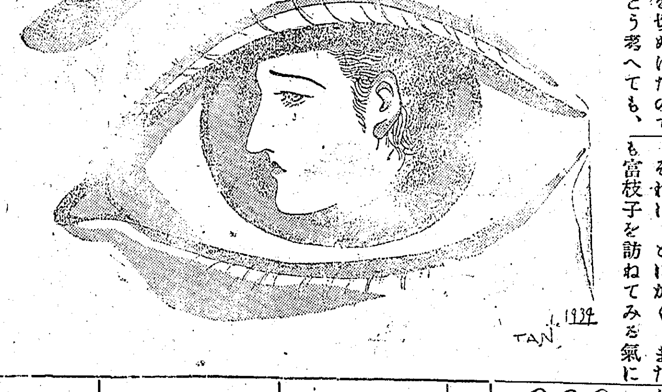
それは眞實は自殺の方法を敎へてやれば救はれるとしか思はれない、いぢらしい姿でなければならなかつた

咲山は自分の發見した毒液の實驗をしたい慾望に驅られてゐたをりからであつたので、ふと、かんがへると富枝子の願ひをきゝいれゝば、その實驗ができると思はないわけにはゆかなくなつた

この誘惑の聲は、初め、にが／＼しい思ひをして强て叱りつけ、しりぞけたのであつたが、しだいに强くなつてきて打まかされさうになつてしまつた

それに、とにかく、またも富枝子を訪ねてみる氣になつた

それが死體の發見される四日前のことであつた



咲山は、富枝子の自殺は思ひとまらせ、方法は敎へまいと思つてゐながら、自分ながら無意識的に例の毒液を持參してしまつたのであつた

そして富枝子に言つた

『僕はこの通り、なんの苦痛もなく化石したやうに死骸となる方法を知つてゐますが、これこのとほり藥品を持つてゐるんですが、あなたにこれをさしあげるわけにはゆきません』

富枝子は、この藥品を見つめてとびあがるほどよろこんだ。そして咲山にむかつてめづらしく御馳走をもち出して、いろ／＼もてなしをはじめた

それで、咲山は心持にすつかり油斷ができたのであつた。それを富枝子はねらつてゐた

廣告

株式現物賣買
三共商事合資會社
平町大町通り　電話三六〇番

新田町
榮ちやんで
おでんハ當分休マセテ頂キマス
夏ハ冷タイ飲物ニ
榮ちやん
獨特の料理

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角
特約店　桑原商店
『取次販賣當ニ應ズ』

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店　水戶線下館驛前（電話五五番）

營業種目
輕油、揮發油、石油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻、種水、タール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三・八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話一三七番）
海上給油及油槽所（大津、平潟、小名濱、江名濱）

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
電話一八一番
（小僧さん入用）

初秋の旅行に
素晴しい乘心地の！
三五年式流線型新車を!!
是非御利用御用命の程を御願申します。
平二　三井タクシー
電話六八五番

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）電話五〇九番

磐城共濟病院（福島縣平町　電話六四二番）
內科　院長　醫學博士　石山謙郎
小兒科　部長　醫學士　佐藤尚輔（電話六四一番）
產婦人科　部長　醫學士　黑澤廣
外科　耳鼻咽喉科　部長　醫學士　大町久藏
皮膚泌尿器科　花柳病科　部長　醫學士　前澤正（電話二七二番）
X線科　醫學博士　石山謙郎
物療科　技手　石山彪
藥局　藥局長　藥劑師　吉本孝平
事務長　鈴木實雄
◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎病室完備　入院隨意

自轉車。
リヤカー
フタバ商會
平・新川町・橋際

勉強ノ店
建築美品（良クテ安イ）
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品建具材
內外銘木　建築木材一式　便利瓦、木羽、
㊎織田材木商店
平町紺屋町　電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉強ノ當店ニ◎

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山市外大槻村鉾生
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山腦病院
電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

石炭　一〇〇%サーヴ井ス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊　正味五十斤入一俵　金貳拾八錢
特塊　同　同　金參拾五錢
品質が優良　目方が正確　デナケレバ値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
◎市內ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
電話三七番
石炭　コークス　豆炭
阿部石炭商店

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意　病室完備）

平町田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物　金物問屋
㊂金屋商店
磐城國平町五丁目
電話九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は㊂の生命なり

大陰謀の六十三名中 赤井生れの佐藤守義

『國民思想』の編輯員大亞細亞協會幹事 私立石川中學卒業の青年

昭和八年七月十一日昭和皇道維新斷行を期した驚天動地の大陰謀いはゆる神兵隊事件は東京刑事地方裁判所岡田、吉本、清水三豫審判事の審理中であつたが事件發覺以來九二年二月の十六日やうやく豫審終結我國新刑法施行以來はじめての内亂豫備陰謀罪に該當する恐怖すべき一味の計畫全貌が明かにされた一味六十三名中地方關係者として赤井村生れ佐藤守義(三五)が一枚加はつて居り、彼の素性は次の通りである

被告、佐藤守義(三五)犯行當時二三―は赤井村三十四番地生れで本籍東京市瀧野川區西ヶ原九四三番地にあり、犯行當時は同市麻布區笄町八番地前田虎雄方にあり無職業、昭和六年三月私立石川中學を中位の成績で卒業、同七年七月小池銀次郎の紹介で愛國勤勞黨に入り國民思想研究所發行の『國民思想』の編輯に從ふと共に中谷武生主催大亞細亞協會常任幹事となる、第一乙補充兵歩兵で無資産である

明記念日をトし 滿洲事變座談會

國防研究會で非常時强調

平國防研究會では明十八日の滿洲事變勃發四週年記念に際し時局柄關係者の士氣を鼓舞する爲當日午後五時から公園忠魂碑を參拜、遥拜式(勅語奉讀)を擧行後マルトモホールに於て事變勃發以來從軍した磐城中學敎官比佐大尉並に在平出征者を圍み實戰座談會を試みる事になつた

フランス人形講習

平町藤田女學校では二十日より四日間第十一回技藝講習會を開くが科目は趣味の手藝フランス人形で講師藤田美恵子氏外數名

幼き手に選肅圖案

マルトモの飾窓に輝く 三小學兒童のポスター

平町三小學校では既報の如く選擧肅正運動の一として全兒童にポスター圖案をさせたがその優秀なるもの左の十五點を一昨十五日より四丁目マルトモ書店ウヰンドに陳列一般の觀覽に供へてゐる、なほ右の外はこれを取纏め家庭に回覽すると

第一校―高二永山誠也 同一館次男 尋六鈴木重雄 同五石山餃一 同本多茂方 第二校―高二石井美智子 同一佐藤久子 同高木光子 尋六梅津吉子 同五柴田雕苦子 第三校―尋六吉田眞一 同馬目孝吉 同大原英保 同女永山佳子 同影山さと子

正義の日本試練の一票

平窪村の肅正標語募集

平窪村では過般募集した選擧肅正標語應募の百八十數通を草野村長その他松崎、田中、鈴木、小泉各委員村役場に參集審理の結果、三等迄を左の如く決定、各種方法により之が普及徹底を圖りつゝある

1『正義の日本試練の一票』上平窪湯葉金重 2『一日一善この一票』中平窪富貴内氏 3『慾に迷はす理想の選擧』中平窪大須賀一英

大麥格付協議

販賣統制に新機轉

本郡に於ける格付協議會は昨報の如く昨十六日平國体事務所に米穀檢査所郡農會各農業倉庫その他關係者が集合種々協議した、大麥の格付制度がなかつたゝめ本縣では共同販賣が出來ず所謂ザラ賣りを行つて來たので隣接茨城産に比し同一品質でありながら一圓からの安値であつたのでこれが制度により愈々販賣の統制がつくわけで米穀檢査所では荷札の出來次第受檢組員聯合會の手により郡内各農庫で檢査した上甲乙丙格外の等級をきめ直に入札させるものであると

人夫の不足に 改修工事大弱り

當局狩出しに狂奔

愈々今年度工事に着手した夏井川改修事業で目下各工事場共人夫不足に少からず悩されてゐる、平町鎌田町地内の工事場も職業紹介所で去る七月來登録を續けて來た四百六十名は何れも就職して尚非常な不足なので事務所では己むなく飯野村から約二百名の人夫を狩り出す一方一兩日前町内勞働者街に至急登録の布令を出す騒ぎ、希望者は直に紹介所で登録を受けられたいと

植田軍優勝

營林署野球戰

濱通り五營林署軟式野球大會は十五日湯本町營グラウンドで開き、植田營林署優勝した

浪江3A―0平 富岡4A―2原の町 植田3A―1富岡

郷土の未發史跡を探る

鮎泳ぐ鮫川河畔にて(歸省餘錄)

勿來生

11

然るに今本項を終らうとした時、予は窪田の小字大槻の地名に就いて想起せるは、該の字音のオホツキの對象である。斯の大槻と同音の地は、諸國に多數あつて、其の所は概して城館、關柵に關係せる跡に限る樣だ。元來キ、ツク、サク、セキ、ソコ、シロ、ジヤウ、ゼイ、タテ、タチ、ダイ、ホリ、ヌマ等の有つ地名は悉く古代の要害、又は中世近古前後の城跡を傳へ表はするもので、例へば漢字で其築、柵、關、刻、塞、館、楯、塁、堀、塹、濠、沼となる。されば大槻の字音を右の例に替へて言ふと、大城、大築、大關などに當たらう

此れに就いて予は思ひ出したのであるが、勿來町の大槻も亦或る時代の要所に相當し、然かも鍋田三善は此と酒井の何れかゞ勿來關の眞蹟であらうと目するに足る位置だ。是れに就き予は別に意見あるが今は省く兎に角大槻は酒井と併立して、菊多莊に入る必經の點であるから、刻の有無は姑らく略して、或る時代の城柵地であつたらしく思ふ

今其の要衝の遺邊に阿彌陀堂(創建不詳)があり、如何にも昔の關所を想はせる地形を示してをる。此の堂上の高嶺北端は平地で、其の下段は墓地となつてゐるが、按ふに此處が大槻てふ城柵ではなかつたらうか其れより少しく南進して、乃ち常與の國界に達するが此の邊にも亦、或る時代、人工を施して坦平にした跡が認められるから、是れも何かの要處でなかつたらうか

從來の傳說では、窪田、御城山、伊勢山、小山(熊ン堂カ)の四城址であるが以上の見地からすると、猶此の外大高、犬飼、大槻の舊墟が認められ加之ず道山あたりにも古城の類があつたと推定されよう。(以上の三篇、夜十一時半了)

郡下の雄を選び 縣大會に參加

來月六日聯合青年競技

縣聯合青年團主催の縣下郡聯青對抗体育大會は來月六日福島市營グラウンドで開催されるが本郡からの出場は過般來詮衡の結果左の如く決定した、なほ昨年の優勝は相馬郡、本郡は第二位であつた

△陸上競技 (百米)平柏原武三 (四百米)内郷大谷岸雄 (千五百米)内郷小池敬一 (一萬米)内郷佐藤武壽 (走高跳)平花澤保夫 (走巾跳)平草野道雄 (砲丸投)内郷伊藤德雄 (俵擔)湯本遠藤丑五郎 (千米瑞典繼走)内郷チーム=坂本誠 加藤鐵兒 寒河江武雄 大谷岸雄

△武道 (劍道)好間第二栗城映 植田長江定市 平志賀義一 (柔道)神谷阿部文平 平白平晃 内郷根本富市 (相撲)内郷鈴木幸七 好間第一 細山義雄 内郷大河原美津次

朝晩の保温方に 氣を採む養蠶家

高値の折柄前途を懸念

本縣晩秋蠶掃立は最近の繭價高に刺戟され各地共若干の掃立增加となつてゐたが八月下旬から即ち掃立前後の天候が俄に冷濕急變をみて目下蠶兒の生理を甚しく害し各地に逆蠶續出の聲がある、なほ軟化硬化の病氣も幾分發生し品種によつては殆どその打撃も少くない有樣で養蠶家は除沙を頻繁に行ひ蠶座の乾燥、蠶室内の換氣排濕に努め朝晚火力をもつて保温注意するやう對策を講じてゐる

實業敎育振興協議

縣實業敎育振興會石城支部總會は來月二十一日小名濱小學校に開くことに決定、縣下實業敎育の改善振興を圖る左記研究、協議、講演あり併せて縣下青年學校、中等學校生徒製作品並に青年學校生徒實習競技展覽會を開催すると

九年度實習成績優良校に對し産業賞授與、會則變更協議、縣諮問案附議、前年度依托學校研究發表、知事訓辭、評議員改選、協議題建議題の討議、講演(未定)

兩親の愛に飢えて

悲しや邪道を辿る 三犯を重ねた彼の素性

住居不定日雇岩手縣江刺郡稻瀬村生れ前科二犯三浦貞吉(三二)に係る窃盜事件は今十七日午前十時から平區で香西判事係り白水檢事關與公判開廷、懲役十月を求刑された、判決は來る二十三日午前十時

中流農家の末子に生れ甘やかされて育ち兩親の死と共に兄姉に呼過されず十七才で仙臺に出て與太者の仲間入りした前科二犯の同人は四倉築港人夫その他日雇暮しをしてゐたが遊興愛欲しさに一昨年十一月から去月下旬に掛け十數回に亘り隣村双葉郡大久村大久字砂利農比佐野長次郎外九ヶ所に忍入つては飼兎十四、白米一石一斗九升、衣類數點その他合計價格四十五六圓の窃盜を働いたものであると

娘で金策せよと 難題の内妻斬り

裂帛の悲鳴に附近が驚く

平町仲間町露天行商入濟原くに(四七)内縁の夫香具師小鍛冶政葛(三七)は十六日夜十時頃金を作れとくにを威嚇し出刄庖丁、ハサミでくにの頭部其他に全治四週間の重傷を負はせ人殺し騒ぎを演じ平署に檢擧された

くには今春迄夫の浪華節語り薬谷鶴治(四九)が出稼ぎ中据はり込んだ政葛と關係をつゞけ歸宅するや政葛は本夫を出刄庖丁を振つて追ひ出し、くにの長女キヨ(三三)が茨城縣で酌婦してゐるのを良い事に毎日の如く娘で金を作れと双物三昧に及び最近遂々内郷村へ鞍替えさせて五十圓をせ占めたが滿足せず十六日夜モツト作れと迫つて拒絶された揚げ句この暴行に出たもので近所でも一時は大騒ぎであつた

。。。。。侵入男に罰金 双葉郡浪江町川添字小丸田四四土工森野耕藏(三六)は去る六月中同町内數軒に怪しからぬ目的で忍込み家人に騒がれ未遂に終つたが此程平區から略式罰金二十圓

工場員 給仕 募集 (各一名)

一、小學卒業程度身体强健にして自轉車に乘得る十七才迄の者

給仕は將來工場員に採用す。

希望者履歴書送付あれ面會日通知す。

新秋を―家居に背く 感傷の人・人・人

平署へ殺到の搜索願

夫婦 山形市横町一七五俊吉養子工藤爲治(二七)妻サキ(二九)の兩名は六日午後十一時頃家出、山形警察署より

女房 内郷村大字綴字堀坂朝鮮人李俊範事宮田春吉妻杉澤カネ(五五)は現金十三圓八十錢を懷にして二日午後十時頃家出、平町仲間町の實姉ミネ方に立寄るらしいと春吉より

自殺の虞れ 叱言を苦に 氣の小さい十八娘 東京市葛飾城金町四丁目吉谷キン(一八)は七月十二日午前十一時頃養父母より縫物の事で小言を云はれたのを氣にして家出、自殺の虞れがあると養父勝三郎より

。。。。。佑賢の生徒 内郷村大字小島字新町磐城佑賢學舍生安藤久雄(一七)は九日午前七時頃家出したので同村佐藤某より

十九娘失踪 職場から姿を消し湯本邊に潜伏か? 内郷村大字宮字町田高橋ハルエ(一九)は二日午後一時頃稼場より逃走したが湯本町に潜伏してゐるらしいから父親の喜一郎から

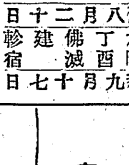
炭鑛邊に稼いて居るか 郡山市咲田町二二一精市次男石川健美(一九)は九日午前十一時頃家出、炭鑛坑夫をしてゐるらしいと親戚の宇内タマノから

娘を連れて 内郷小島の古物屋 内郷村大字小島字新町古物商松本音次郎(三七)は長女タカ子(六)を連れて八日朝病身の妻ミサオ外三兒を殘して家出したので生活に困るとミサオから

悪の船出 船長女中と逃行 徳島縣海部郡辨岐町出羽爲二四漁船金羅丸船長奥村重彌(四〇)は漁業のため小名濱元分旅館鈴木金藏方に止宿中同家の女中平町紺屋町生れ石工の娘橋本トシ子(二八)と懇になり去月五日夜手に手を取つて家出、草野より仙臺へ行つた形跡あると同町立花雄七より

幼女を伴れて 東京市赤坂區臺町八五井上一郎(四〇)妻キノ(三三)は四日午後一時頃三男久(三)をつれ上遠野村の實家へ行くと出かけたまゝ行方不明になつたが同人は元看護婦をした事があるので平町邊に看護婦をしてゐるらしいと一郎から

舊八月十二日 水曜 丁酉 佛滅 建 軫宿 新九月十八日



諸判定殿書 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 優勢に安んじて熱情おとろふればすいびに傾かん▲二黒 目的は次第に好化して成就近きにありとす▲三碧 定業を嚴く守りて一家の安靜を願ふべき日▲四綠 慮りて輕擧に陥り易き其慎ろに計畫すべし▲五黄 元氣の盛んなると共に事業の向上發展を呈す▲六白 皆狀を固守し他事に心移りを起さぬが安全▲七赤 一事に專心すれば大に功を奏し利益大なり▲八白 大望をも遂すべき日備かず全力を注ぐべし▲九紫 手順のそごより勞苦を增すべし病厄亦警戒

十八日 (小名濱測候所調査)
日出 五、二一 月出 後 九、一二
日沒 五、四二 月沒 前 一一、二三
滿潮 前八、一〇 後六、四〇 干潮 前 一、二五 後 一、〇〇

廣告

前田醫院 院長 前田濟美 植田町電話一二四

井坂醫院 平町田町 電話五五九番

産科 婦人科 外科 藥局 院長 木村寅次郎 醫學博士 内本宗八 藥劑師 玄番彌一 入院隨意 病室完備 平町新川町十九番地 木村病院 電話一六四番

江戸前 海老天麩羅 天丼 親子丼 平 研田町 酒喜家 電話一五一番

入院隨意(自炊の便あり) 外科專門 X光線科 平南町 病室完備 上田醫院 (電話 一二九)

内臓外科一般 外科花柳病科 (入院隨意) 平町六丁目(橋際) 木村外科醫院 電話三〇九